

機械知能工学プログラムの 教育における3つのポリシー

1. ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）

- ・ 21世紀の機械知能工学に関する諸問題を解決し、持続可能な豊かな地域社会の創生に貢献するために、機械知能工学の高度な知識・技術を修得
- ・ 電子・制御等との分野横断から、複数分野の技術を活用した技術の高度化、機械の知能化を実践する能力を修得
- ・ 課題解決に即したものづくりが実践できる能力を修得
- ・ 機械知能工学に関する多様な場面で実践できる高度なコミュニケーション能力を習得

2.カリキュラム・ポリシー（学修・教育目標を達成するための教育体系）

【教育課程編成の方針】

ディプロマポリシーとして掲げた修了認定の基準を実現するため、高度な学際的思考力・実践力や境界領域・異分野の専門知識・技術を養成するとともに、研究テーマに関連した学位プログラム間の連携・融合を図るカリキュラム編成・研究指導を実施する。

【教育内容の学修方法】

次に掲げる科目を配置し、これらを事例研究、グループワーク、フィールドワーク、ワークショップなどの方法により主体的な学修を行う。

- ・ 機械知能工学に関する高度な専門知識を身に付けるための科目を配置
- ・ 機械・電子・制御・数学の融合による高度なメカトロニクスに関する知識と技術を養成するための融合的専門科目を配置
- ・ 機械知能工学の創造的実践に必要な知識・技術を身に付けるための科目を配置

研究指導に当たっては、主指導教員1名と副指導教員2名の計3名を配置し、この内、第1副指導教員は学位の専門性を担保するために同じ学位プログラムの教員から、第2副指導教員は、専門分野に対して境界領域や学際領域の観点から学生の研究進捗や専門能力の修得に対して指導を行い、最終的に高度な専門力と実践力を身に付けさせる。

【学修成果の評価方法】

学修成果の評価は、授業科目ごとに定める達成目標に応じ、科目の態様に従って、試験、レポート、作品、発表などにより評価する。修士論文に係る評価は、大学院学位論文等評価基準（博士前期課程）に基づき評価する。

3. アドミッション・ポリシー（入学者受入れの方針）

【求める学生像】

- ・ 機械知能工学を学修するために必要な熱力学、流体工学、機械力学、材料力学、数学などの基礎学力を有する人
- ・ 機械知能工学や「ものづくり」に関心を持ち、創造的・独創的に思考しながら、研究課題や実践的・応用的ものづくりに挑戦することに意欲を持つ人
- ・ 機械知能工学を通じて地域社会に貢献することに強い関心と意欲を持つ人

入学者選抜の基本方針については[こちら](#)